

# 従業員満足度調査（ES調査）ご参加案内

2011年12月1日

早稲田大学ビジネススクール教授 東出浩教  
リアルワン株式会社代表取締役 青山慎

ご挨拶

まず初めに、本年3月に発生した東日本大震災で被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

翌2012年2月から3月にかけて実施する従業員満足度調査のご案内を申し上げます。

今回で7回目となる本調査は、全国の企業の状況を定点観測し、課題や解決策を提起する研究プロジェクトであると共に、ご参加企業に従業員満足度調査を体験して頂く無料体験の機会でもあります。ご参加頂いた企業様には、調査結果をまとめた『フィードバック・レポート』を無償にてご提供し、経営に役立てて頂くとするものです。

2011年は、東日本大震災、タイ王国の洪水被害、ユーロ通貨危機、大企業の不祥事等と胸を締めつける出来事が多発し、非常に厳しい一年となりました。多くの課題が未だ残されており、企業や働く人々の不安を拭い去ることができておりません。しかし、そのような中でも人々は支え合い、少しずつ歩みを進め、希望の光を取り戻そうと懸命に努力しています。苦しい状況を打開し、未来を築いていくためには、やはり人々の積極的な活躍が欠かせません。

本プロジェクトは開始当初より、企業の人材、組織に関する多くの課題を発見し、有効な解決策を提起して参りました<sup>\*1</sup>。貴社の本プロジェクトへのご参加を心よりお願いすると共に、この機会を是非利用して頂き、ご提供する研究結果やレポートを貴社の人材・組織マネジメントの一助としてご活用頂ければ幸いに存じます。

本プロジェクトは、早稲田大学東出研究室とリアルワン(株)が共同で毎年二回実施しているものです。その目的は調査・研究であり、広く一般に役立てて頂くため学会等での発表<sup>\*2</sup>、ホームページ上での報告等に活用させていただきます。ご参加企業に金銭的な負担をお願いするものではございません。フィードバック・レポートは無償にてご提供致します。

調査・研究から得られた知財、ノウハウ、データ（全国値、業界値などの一般的データ）は、リアルワン(株)の従業員満足度調査、コンサルティング等のサービスに活用させていただきます。

※1：過去の調査レポートは、リアルワン(株)のホームページ上で公開されています。

※2：「2010年11月開催 日本ベンチャー学会第13回全国大会」「The 7th Biennial Conference of the International Academy for Intercultural Research」にて発表致しました。

## 記

- 調査目的 従業員満足度の調査と研究  
従業員満足度調査の体験と活用
- ご参加メリット 個別のフィードバック・レポートの提供
- 対象者と人数 従業員50名以上の民間企業に勤める正社員および契約社員  
※ご参加人数は何名様からでも可能
- 調査方法 質問票（アンケート）にインターネット画面を通じて回答  
質問数100問程度、回答時間15～20分程度
- スケジュール 回答期間：2012年2月13日～3月16日（10日～2週間程度を任意にご設定）  
申込期限：2012年2月29日  
レポート提出：2012年4月上旬～中旬（調査終了順）
- お問い合わせ 従業員満足度（ES）調査・研究プロジェクト事務局 担当：瀬戸  
電話：03-3666-1702 E-mail：s.seto\_02@realone-inc.com

詳細は、別紙「従業員満足度（ES）調査 調査計画書」をご確認ください。

以上

# 従業員満足度(ES)調査 調査計画書

無料体験企画 ご参加のご案内



リアルワン株式会社

# 企画概要

## ■ 従業員満足度調査とは

**従業員満足(ES)は、企業の活力を映し出す“経営指標”です。**

従業員が仕事に対して抱く肯定的な感情であり、企業の活性度や健全性と深く関係しています。今では多くの企業(大企業で約半数、中小企業で1/3)が調査を定期的にも実施しており、“経営指標”の一つとして活用されています。

調査は主にアンケートを通じて行われます。“満足度”の現状を知るだけでなく、組織の課題は何かを的確に把握でき、経営の“打ち手”を考える上で非常に有効なツールです。

## ■ 無料体験企画とは

本企画は、従業員満足度調査の導入を検討されている企業様に、実体験を通じて調査を理解して頂くとするものです。従って、ご提供するサービスは、通常の有償サービスと何ら変わらない内容です。ご体験頂いた上で、今後の導入や活用のご検討に役立てて頂ければと考え実施するものです。

また、無料で実施できる背景には、本企画が、早稲田大学東出研究室と行う年二回の学術的調査という別側面を持っているからです。日本社会、日本企業に貢献するため、全国規模の調査を行い、その結果を学会発表を通じて発表し、お役立て頂いております\*。



※調査から得られた知財・ノウハウ・データはリアルワン(株)のコンサルティング等のサービス、早稲田東出研究室の研究に活用させて頂くことをご了承ください。

本調査の学術的活用事例としては、『日本ベンチャー学会第13回全国大会』、『The 7th Biennial Conference of the International Academy for Intercultural Research』で発表させて頂いております。当然ながら、決して貴社名を特定できるような情報は公開致しません。

# 参加特典

## ■ フィードバック・レポート概要

調査の結果をまとめたレポート※をご提供致します。詳しい内容はお問い合わせください。

### 1. 貴社従業員満足度の現状

- 全社、属性別（組織、階層、性別、就業年数等を任意に設定頂きます）
- 全国平均、偏差値による比較

### 2. 貴社の『強み』と『優先課題』の特定

- 強み：何が従業員のモチベーションのドライバーとなっているか。
- 優先課題：現在最も改善が求められる課題は何か。

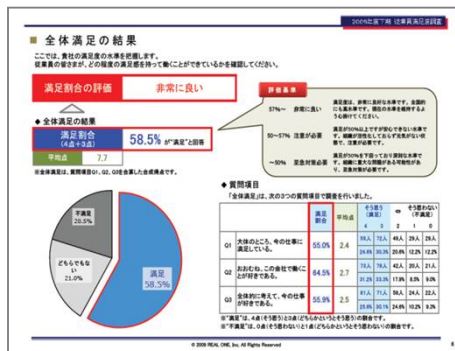
### 3. 自由記述による数値の補強

## ■ フィードバック・レポート例

※レポートはPDF形式のデータ納品となります。

### ▶ 全社結果

- 満足率（満足している人の割合）の提示。
- 数値の意味づけ。



### ▶ 優先課題一覧

- 現在最も改善が求められる課題は何かを特定。
- 対策の検討。

■ 領域別満足：『優先課題』の把握  
 ここでは、『従業員の間で最も改善が求められる課題』を特定し、貴社の『優先課題』を特定して頂きたい。  
 この調査の結果を基に、改善が求められる課題を特定し、改善するための具体的な対策を検討して頂きたい。  
 優先課題の特定は、属性別の満足度が低い項目を優先して行われます。  
 優先課題一覧 回答の満足度が低い「重要度が高かった」項目

属性	質問項目	満足率	偏差値	報告ページ
組織	会社での満足	33.2%	3.8	P. 35, 36, 39
組織	社外での満足	32.1%	5.5	P. 35, 40, 41
組織	給与・福利厚生	28.1%	4.6	P. 35, 40, 41
組織	情報伝達	16.2%	3.7	P. 35, 40, 41
職域別別	経営者の満足	20.0%	4.0	P. 31, 34, 35
性別	評価と成長	32.7%	3.8	P. 37, 38, 39
性別	評価と成長	24.5%	4.8	P. 37, 38, 39
性別	評価と成長	16.8%	3.7	P. 37, 38, 39
性別	仕事の面白さ	27.0%	4.1	P. 39, 38, 39

“打ち手”  
が見える

# 調査項目

標準調査項目※として、中核となる「①全体満足」と個別領域の「28側面（②～⑤）」を調査します。  
今までの研究から、満足度への影響の「60～70%」をこれらの項目で説明できることが明らかになっています。

## ② 仕事内容の側面（6側面）

- 意義と責任
- 能力の活用
- 成長の実感
- 自律性
- 仕事の多様性
- フィードバック

## ④ 職場仲間の側面（7側面）

- 経営者（ビジョン）
- 経営者（社員との関係性）
- 上司（業務の遂行）
- 上司（配慮の行動）
- 部署内の連携
- 部署の成長努力
- 部署間の連携

## ① 全体満足

## ③ 組織の側面（7側面）

- 経営方針
- 意志決定
- 闊達な風土
- 変革の風土
- 顧客志向
- 情報伝達
- 組織の倫理観・モラル

## ⑤ 待遇の側面（8側面）

- 給与
- 評価と褒賞
- 昇進・昇格
- 福利厚生
- 能力開発の機会
- 働く環境
- 仕事の負荷
- 雇用の安心感

## ⑥ 属性

部署、職種、職位、勤続年数、性別等を任意に設定。

※調査項目は、ご参加申し込み後にご確認頂きます。また、学術的目的から、上記の標準項目に加えて幾つかの質問をお聞きます。

# 参加・実施詳細

## ■ 参加対象

- 参加可能数:20社限定
- 対象条件:
  - ✓ 従業員数50名以上の民間企業
  - ✓ 上記企業へ正社員または契約社員としてお勤めの方  
※取締役、執行役員等の経営層、派遣、パート、アルバイトの方は対象となりません。
- その他:
  - ✓ 社内の一部署などでご参加頂くことも可能です。  
※ご参加人数が50名様以下の場合「個別レポート」は作成できません。

## ■ 実施方法

インターネットを通じて回答して頂きます。  
質問数100問程、回答時間15~20分程度です。



		そう思わない 1		どちらでもない 3		そう思う 5
Q1	仕事に見合った給料を得ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Q2	生活を十分まかなえる給料を得ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

## ■ スケジュールと作業手順

- スケジュール
  - ✓ 参加申込期限:2012年2月29日
  - ✓ 回答期間:2012年2月13日~3月16日(一ヶ月間の期間内で10日~2週間程度を任意に設定して頂きます)
  - ✓ レポート提出:2012年4月上旬~中旬(調査終了順)
- 作業手順
  - ✓ 窓口担当者様にお願いする作業は、回答者の選定とメールの転送のみです。





# お申込み & お問い合わせ

## お問い合わせ

### 従業員満足度(ES)調査・研究プロジェクト事務局

事務局担当 瀬戸  
電話:03-3666-1702 (リアルワン株式会社内)  
E-mail:s.seto\_02@realone-inc.com

## 調査・研究者

### リアルワン株式会社 (Real One, Inc.)

代表取締役 青山 慎

設立 2006年6月26日

HP <http://www.realone-inc.com>

当社は、従業員満足度調査、リーダーシップ・アセスメント(360度)、教育・トレーニングおよびコンサルティング事業を行う情報サービス企業である。大学研究室とも連携を図り、数多くの調査・研究を通じて知財を蓄積し、企業をはじめとする社会に広く貢献する活動を行っている。

### 早稲田大学ビジネススクール東出研究室

教授 東出 浩教 (ヒガシデ ヒロノリ)

1985年、慶應義塾大学経済学部卒業。同年、鹿島建設入社。建設JVのマネジメントや欧州各国における不動産投資の実務に従事。1991年、ロンドン大学インペリアルカレッジ修士課程修了(MBA)。2000年、同カレッジよりEntrepreneurshipを専攻した日本初のPh.Dを授与される。

1998年、早稲田大学ビジネススクール講師。2002年、同ビジネススクール助教授。2006年より現職。